

静岡がん会議

2015

ファルマバレープロジェクト  
～次のステージに向けて～

平成28年3月5日(土)

**静岡県立静岡がんセンター研究所**

主催：静岡県・静岡がんセンター

## 開催趣旨

2002年にスタートし、疾病克服と産業振興を両輪として進めてきたファルマバレープロジェクトは、新拠点施設「静岡県医療健康産業研究開発センター」が開所し、新たなステージへ飛躍を遂げようとしている。

本会議は、国際交流として、モンゴルのがん医療について学び、親交を更に深めるとともに、新拠点施設活用による新たなクラスターモデルの創出にフォーカスし、プロジェクトを更に発展させることを目的として開催する。



静岡県立静岡がんセンター 総長 山口 建

## プログラム

平成28年3月5日(土)  
静岡がん会議2015 静岡がんセンター 研究所棟1階 しおさいホール  
静岡県駿東郡長泉町下長窪1007

### テーマ：ファルマバレープロジェクト～次のステージに向けて～

9:30	主催者挨拶	川勝 平太 (静岡県 知事)
	協定締結式	静岡がんセンターとがんのないモンゴル“イトゲルー希望”国家基金との協定締結
	来賓祝辞	ハジドスレン・ポロルマー (がんのないモンゴル“イトゲルー希望”国家基金 代表/モンゴル国大統領夫人)
10:00	休憩 (10分)	
10:10	特別講演	モンゴルのがんの医療事情 トヴ・ラフガオチル (モンゴル国立がんセンター 化学療法医師)
10:30	休憩 (10分)	
10:40	実行委員長挨拶	山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 総長)
11:00	基調講演	ファルマバレープロジェクトの課題と大いなる期待 大川 澄人 (ファルマバレー応援団 代表/ANAホールディングス株式会社 常勤監査役)
12:00	特別講演	イノベーションの評価とは 佐分利 応貴 (総務省行政評価局 評価監視官)
12:30	昼食 (60分)	
13:30	セッションⅠ-1 講話1	静岡がんセンターとの共同研究に基づく製品開発 志村 一男 (富士フィルム株式会社メディカルシステム事業部事業開発グループ 統括マネージャー)
13:50	講話2	地域金融機関がファルマバレープロジェクトに寄せる期待 稲田 精治 (三島信用金庫 理事長)
14:10	セッションⅠ-2	静岡県東部地域の魅力～企業誘致に向けて～ 松村 昌広 (静岡県経済産業部商工業局企業立地推進課 主査) 沼津市・三島市・富士宮市・裾野市・清水町・長泉町・小山町・伊豆かかりつけ湯
14:40	休憩 (15分)	
14:55	セッションⅡ	ファルマバレープロジェクト新拠点施設「静岡県医療健康産業研究開発センター」の開所 静岡県医療健康産業研究開発センターの役割と運営 滝 順彦 (公益財団法人静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター 副所長)  センター活用(入居者による発表) 座長 植田 勝智 (公益財団法人静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター 所長) 発表者 稲葉 文章 (テルモ株式会社MEセンター センター長) 盛田 延之 (東海部品工業株式会社 代表取締役) 小川 哲朗 (オリンパスステルモバイオマテリアル株式会社 代表取締役社長) 江口 徹 (サンスター株式会社サンスター静岡研究所 所長) 深澤 好正 (深澤電工株式会社 代表取締役社長)
15:55	閉会挨拶	山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 総長)
16:00	静岡県医療健康産業研究開発センター 見学	

\*講演のテーマにつきましては、変更する場合があります。ご了承ください。

## 特別講演

## モンゴルのがんの医療事情

講師

トヴ・ラフガオチル (モンゴル国立がんセンター化学療法医師)



### 経歴・研究活動等

学歴と学位	
1997~2003	モンゴル国立医科大学
2003~2004	モンゴル国立がんセンターがん研究員研修
2004~2006	モンゴル国立医科大学修士課程
2009~2014	国立大学法人徳島大学博士課程
職歴	
2004~2008	アチ私立医科大学準教授
2008~2009	モンゴル国立がんセンター科学・教育局研究員
2014~	モンゴル国立がんセンター化学療法医師

モンゴル国立がんセンターは、1961年に設立以来、がん医療を行ってきた。

現在は、13診療科、11運営課と432人の職員により、がんの手術、化学治療、放射線治療と緩和医療を運営している。

がん専門治療以外に、当分野の専門医師の育成と研究などを行うとともに、がん事前検診などにかかわるプロジェクトを実施している。

モンゴルでは、がん患者が数年にわたって増加傾向にあり、2005年と比較し、2015年の時点では人口10万人に対して1.7倍増加している。新規診断事例の7割が末期状態であり、死亡原因の2位になっている。肝臓がん、胃がん、食道がん、肺がんと子宮がんががん全体の中で85%を占めている。肝臓がんは2015年の段階で人口10万人に対し92.5人で世界でも上位にランクされている。

これからのがん発症とがんによる死亡率を下げるため、保険制度の見直し、初期段階でがんを診断できる技術の導入、がん専門医師と医療従事者の育成に取り組む必要がある。

## 基調講演

## ファルマバレープロジェクトの課題と大いなる期待

講師

大川 澄人 (ファルマバレー応援団 代表  
ANAホールディングス株式会社 常勤監査役)



### 経歴・研究活動等

1969.7	日本開発銀行入行
2004.6	日本政策投資銀行副総裁
2007.6	財団法人日本経済研究所理事長
2011.6	全日本空輸株式会社常勤監査役
2013.4	ANAホールディングス株式会社常勤監査役 全日本空輸株式会社監査役

過去日本国内で、地域開発、産学官連携、産業集積等いろいろなプロジェクトが推進されてきた。成果は相応に上がっているが、持続性を有して成功しているものは多くはないのではないかと。このなかで、ファルマバレープロジェクトは平成13年度にスタートして以降着実に成果を上げ、更なる拡充が進んでいる。他事例と比較しつつその理由、課題、今後への大いなる期待を述べてみたい。

## 特別講演

## イノベーションの評価とは

講師

佐分利 応貴 (総務省行政評価局 評価監視官)



### 経歴・研究活動等

1991.4	通商産業省(現:経済産業省)入省
2001.1	外務省在エジプト日本大使館一等書記官
2006.8	東北大学公共政策大学院准教授
2008.7	経済産業省通商政策局企画調査室長
2009.7	経済産業省商務流通政策局情報国際企画室長
2010.4	農林水産省生産局花き産業振興室長
2011.10	京都大学経済研究所准教授
2014.8	総務省行政評価局評価監視官

“測れないものは改善できない” - W.T.ケルビン卿

望遠鏡が天文学の発展を促し、顕微鏡が医学の発展を促したように、科学の発展はモノサシの発明が支えてきた。経済政策の効果がGDPというモノサシで測られるように、社会の様々な問題も、よいモノサシが発明されれば解決が可能である。日本の今後の命運を決めるイノベーションは、金の卵のスプーンリレー(駅伝)であり、クラスターのメンバーの活動量を測ることで評価できる。

## セッション I-1

### 講話 1 静岡がんセンターとの共同研究に基づく製品開発

講師 志村 一男 (富士フィルム株式会社メディカルシステム事業部 事業開発グループ 統括マネージャー)



#### 経歴・研究活動等

1983.4	富士フィルム株式会社宮台技術開発センター 配属
2008.11	同 メディカルネットワークセンター長
2009.10	同 メディカルシステム事業部 ITソリューション部長
2013.4	同 メディカルシステム事業部 事業開発G 統括マネージャー

富士フィルムは、2005年より静岡がんセンターと進めている包括的な共同研究の成果に基づき、2012年、静岡がんセンターの1000例の肺がん症例を組み込み、過去の診断情報を活用し、新しく撮影された画像に類似した過去の症例を自動的に検索・表示する「SYNAPSE Case Match」を発売した。

また、2015年、経産省のアウトバウンド事業に応募し、静岡がんセンターにおけるSYNAPSEを用いた日本式医療(画像診断)をASEANに展開する取り組みを進めている。

### 講話 2 地域金融機関がファルマバレープロジェクトに寄せる期待

講師 稲田 精治 (三島信用金庫 理事長)



#### 経歴・研究活動等

1968.3	日本大学法学部 卒業
1968.4	三島信用金庫 入庫
2000.6	常勤理事就任
2007.6	理事長就任
2013.11	三島商工会議所 会頭就任
2014.1	静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会 会長就任
2015.6	静岡県ヘルスケア産業振興協議会 会長就任

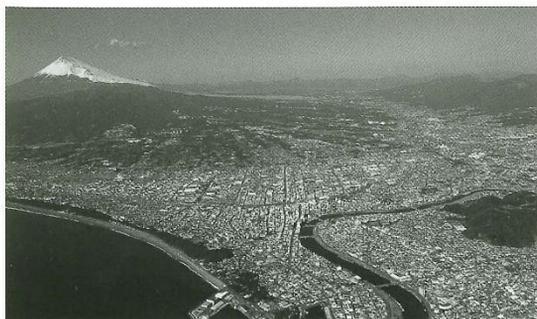
三島信用金庫は、静岡県東部地域、伊豆地域を営業エリアとして地域企業の経営課題解決に向けた支援や地域産業振興の支援により地域経済の活力創出に取り組んでいる。また当該地域は「ファルマバレープロジェクトの中核拠点」でもあることからファルマバレーセンターとの連携は、地域経済の活性化の重要な施策の1つであると考えている。医療健康産業クラスター構築にあたり、医療・健康分野の裾野を広げるため地域金融機関の支援機能を最大限発揮していきたい。

## セッション I-2

### 情報提供 静岡県東部地域の魅力 ～企業誘致に向けて～

講師 松村 昌広 (静岡県経済産業部商工業局企業立地推進課 主査)

沼津市・三島市・富士宮市・裾野市・清水町・長泉町・小山町・伊豆かかりつけ湯



静岡県東部地域は、霊峰富士をはじめとする世界水準の美しい自然と温暖な気候に恵まれ、季節の移り変わりとともに多彩な表情を見せる景勝地や重要な歴史の舞台となった史跡がいたるところにあり、とれたての海の幸、山の幸も存分に味わうことができる「訪れてよし」、「住んでよし」の魅力あふれる地域である。

本日は、地元市町の皆さんと共に、世界に誇る東部地域の歴史、文化、食を紹介するとともに、こうした「場の力」を背景とした企業誘致の取り組みを紹介する。

## セッションⅡ ファルマバレープロジェクト新拠点施設「静岡県医療健康産業研究開発センター」の開所

### 情報提供

## 静岡県医療健康産業研究開発センターの役割と運営

### 講師

滝 順彦（公益財団法人静岡県産業振興財団）  
ファルマバレーセンター 副所長



#### 経歴・研究活動等

- 1979.4 静岡県庁入庁
- 2010.4 ぐらし・環境部 生活環境課課長代理
- 2012.4 静岡県立静岡がんセンター マネジメントセンター長
- 2015.4 経済産業部商工業局参事  
(公益財団法人静岡県産業振興財団派遣)

静岡県は、本県の恵まれた資源を生かし、医療からウエルネスまで世界レベルの研究開発を進め、県民の健康増進と健康関連産業の振興を図り、特色ある地域の発展を目指す「ファルマバレープロジェクト」を推進している。この取組をさらに加速するため、プロジェクトの新たな拠点として整備を進めてきた「静岡県医療健康産業研究開発センター」が3月1日に一部開所する。オープンインベーションの拠点として期待される新拠点の役割とその運営について紹介する。

### 発表①

## ファルマバレープロジェクト静岡県医療健康産業研究開発センター入居にあたり

### 講師

稲葉 文章（テルモ株式会社MEセンター センター長）



#### 経歴・研究活動等

- 1982.4 テルモ株式会社入社
- 2009.6 研究開発本部商品開発グループ兼  
MEセンター開発グループ 開発部長
- 2012.1 MEセンター センター長

テルモ株式会社は、世界160カ国以上の地域の患者さんや医療現場に向けて、高品質な医療機器やサービスを供給しており、MEセンター（メディカルエレクトロニクス）は、医療電子機器の開発・製造部門としてその一翼を担っている。静岡県医療健康産業研究開発センターへの入居にあたり、関連企業との協業も視野に、アンメットニーズに則した開発や生産活動をしていきたいと考えている。本日は、企業の概要と地域支援できる点などについて紹介する。

### 発表②

## 新拠点に期待すること

### 講師

盛田 延之（東海部品工業株式会社 代表取締役）



#### 経歴・研究活動等

- 1963.3 日本大学法学部卒業
- 1963.4 東海部品工業株式会社 入社
- 1986.2 創業者の父 急逝により社長に就任
- 1999.4 マイクロ事業部設立
- 2003.4 チタン事業部を設立し、医療分野に参入
- 2010.6 平成22年度課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院、企業間の連携支援事業に下記テーマで応募、採択される「生体との不適合を解決するための高生体適合性（カスタムメイド）インプラントの開発」

#### 受賞歴

- 2008.11 静岡県ニュービジネス奨励賞（静岡県ニュービジネス協議会）
- 2011.5 さんしん百周年記念事業  
第1回「夢企業大賞」最優秀（三島信用金庫）
- 2014.3 がんばる中小企業 小規模事業者300社（経済産業省）

静岡がんセンターを中心とした医療機関・ものづくり・薬事・知財関連ネットワークの構築を期待している。

弊社が扱っているインプラント材は90%が輸入品である。そのネットワークから日本人の体型に適合した製品を数多く開発・上市に結び付ける。

さらに最重要の出口（販売）は、センター・医療機器等の販売会社・医療機関と連携を密にし、戦略を検討し、実行に移していきたい。そして第3次戦略計画の生産金額の目標（2兆円）に、少しでも貢献していく。

## 発表③

### ファルマバレー新拠点を活用した、革新的なバイオマテリアルと医療機器の開発促進

## 講師

### 小川 哲朗 (オリンパステルモバイオマテリアル株式会社 代表取締役社長)



#### 経歴・研究活動等

1979.3	東京農工大学工学部卒
1979.4	旭光学工業(現HOYA Technosurgical)入社
1989.8~1991.2	Yale大学大学院、研究員(特命休職)
1995.10	同社ニューセラミックス事業部研究開発課長
2001.10	ニューセラミックス事業部開発部長
2007.12	Laboratory Skin Care, Inc. 副社長 (R&D)
2010.10	オリンパステルモバイオマテリアル株式会社 執行役員(研究開発及び海外事業開発) 代表取締役社長
2011.4	日本セラミックス協会理事、生体関連材料部会長
2011.5~2013.5	Biotechnology Journal, Editorial Board
2012.9~	日本バイオマテリアル学会理事
2013.6~	セラミック人工骨、コラーゲン複合人工骨、金属インプラント、クロ マトグラフィー分離剤、抗体検査試薬、培養骨、経皮DDS担体 などバイオマテリアルの応用研究と製品化に従事
受賞歴	日本セラミックス協会技術賞 無機リン化学会技術賞 日本化学会技術賞

弊社は2007年4月からファルマバレー長泉工業団地に「三島事業場」を新設し、整形外科、歯科、創傷分野向けに、人工骨や人工真皮などバイオマテリアルを応用した医療機器を開発し、供給してきた。この度、更なる事業拡大を実現するため、ファルマバレー新拠点に入居し、開発機能を強化する決断をした。新たな環境で新設備導入、開発スタッフの充実、他の企業との連携が可能となり、革新的な医療機器の開発、実用化の加速を期待する。

## 発表④

### 静岡県医療健康産業研究開発センターの活用

## 講師

### 江口 徹 (サンスター株式会社 サンスター静岡研究所 所長)



#### 経歴・研究活動等

1982.3	麻布大学環境保健学部環境保健学科卒業
1982.10	サンスター株式会社入社・生物化学研究部
1985.10	大阪大学工学部発酵工学科 研究生(2年間)
2007.6	麻布大学 博士(学術)
2008.10	東京工業大学生命理工学研究所非常勤講師
2009.3	サンスター静岡研究所所長

2006年より静岡がんセンター、静岡県歯科医師会と弊社の三者間で「がん治療に伴う口腔合併症の予防・軽減のための医療連携体制の確立」をテーマに、共同研究事業、研究交流促進事業、人材交流事業を進めてきた。成果としてがん患者様向け口腔ケア製品を共同で開発し、2009年に発売した。

しかし、患者さんの視点、医療スタッフの視点で口腔ケアを捉えてみると、エビデンスも製品そのものもまだまだ充分な状態ではない。静岡県医療健康産業研究開発センターに入居し、臨床現場で役立つ、質の高い製品開発とその裏づけデータの取得を行うと共に、企業交流による新たな視点での医療製品開発を目指している。

## 発表⑤

### 会社案内と新拠点での今後の取り組みについて

## 講師

### 深澤 好正 (深澤電工株式会社 代表取締役社長)



#### 経歴・研究活動等

1955	沼津市生まれ
1994	深澤電工株式会社 社長就任
2013	長泉町認知症家族の会会長
2013	長泉町社会福祉協議会理事
2014	沼津法人会長泉町支部副支部長
2014	長泉町商工会副会長
受賞歴	障害者雇用優良事業所等厚生労働大臣表彰 (障害者雇用優良事業所、優秀勤労障害者)
2008.12	静岡県科学技術振興知事褒賞(産業技術振興功績者)
2009.9	障害者雇用優良事業所等厚生労働大臣表彰(優秀勤労障害者)
2012.10	高齢者雇用開発コンテスト厚生労働大臣表彰

当社は昭和37年創業、富士山のふもと長泉町で創立53年を向かえた老舗企業である。事業は、電子機器の開発設計や製造組立てを主に、分析装置の組立て修理等も行っている。強みは、53年間で培った電子機器技術力で変種変量を短納期でお客様に供給できることである。特徴は、5S活動や高齢者・障害者の雇用推進に取り組んでいる。

昨年から取り組んできた、ファルマバレーでの開発新拠点への入居が決定し、また医療機器製造登録も取得し、今年からは本格的に医療機器関係に参入する予定である。